

2015年1月1日

第79号

発行：日本臨床検査技師連盟
発行責任者：宮島喜文
編集担当者：相山広美

日本臨床検査技師連盟ニュース

◆◆連盟ニュース◆◆

今号の主な内容

◇2015 新春を迎えて

2015 新春を迎えて

連盟代表 宮島喜文

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

平素より、日本臨床検査技師連盟(日臨技連盟)の活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年暮れには衆議院が解散して選挙が行われ、「景気回復、この道しかない」を政権公約に掲げた自民党が圧勝しました。この結果、安倍政権の基盤は強固なものとなり、経済最優先と政権運営を進めようとしています。この選挙において、日臨技連盟は従来からの「政権与党を支持する」との立場から、自民党・公明党の立候補者へ計36通の推薦状を発行し、ほぼ全員が当選しました。該当選挙区において選挙活動をしていただいた連盟ブロック長、連盟常任執行委員、都道府県連盟支部長、連盟会員の皆様をはじめご支持いただきました会員の皆さまに厚く御礼を申し上げます。

昨年度、日臨技連盟は規約等の改正を行い、組織体制を再構築し、会員数の増を目標に定め、組織拡大を目指してきました。日本医学検査学会や各支部学会での広報活動や会員促進運動などを通じて、連盟の意義や必要性を多くの会員の皆さんに訴え、前年度より約1000名の会員増となったものの、未だ目標数の1万名までは遠く達成していません。方法論を含めて今後の取り組みを強化していく必要があります。

私は代表に就任して以来、臨床検査技師の身分向上や職域拡大を目指してきましたが、法改正や医療政策の実現を進める時、厚生労働省など行政府との折衝だけでは実現できない場面を度々経験しています。それは、最高意思決定機関が国会であり、その構成員である国会議員が私たちの要望する法案・政策決定のカギを握っている事実があるからです。このことを多くの日臨技会員・賛助会員の方々に理解していただき、一人でも多くのかたが日臨技連盟に参加していただくことを願っております。

私たちは日本医師会などの医療職能団体における政治活動と同じように、日本臨床衛生検査技師会(日臨技)と日臨技連盟は表裏一体、一心同体であるとの意識の下で、目的を達成するため選挙活動をはじめ、政策提言などを進めていくことが極めて重要だと痛感しております。その意味では、臨床検査技師であり、日臨技連盟の会員である仲間を国会や地方議会の送り出すことが必要です。4月には統一地方選挙、来年夏には参議院選挙が予定されていますので、選挙対策を進める年になります。他の医療職能団体の動きをみると出遅れも否めません。

今後も国民皆保険を基盤として持続的で安定した社会保障制度を確立するため、早期に日本経済の再生を願うとともに、少子・高齢化時代の国民の医療と福祉に寄与するため、更に臨床検査技師の社会的地位、身分の向上に取り組む活動を進めてまいります。